

番号	寄せられた意見	村の考え方
1	<p>・村民全体のDX化推進 農業従事者・子育て親（産休・育休中）・専業主婦・大学生などの部門別のメルマガを作り、バイトや物々交換などのマッチングをする。主婦世代や学生など短時間バイトを希望する人も多く存在し、双方にとってプラスになる。また、村でのイベント情報も広報よりタイムリーに届く。（弘前市などで実施事例あり）</p>	<p>現在、村ではイベント等の情報発信については、村広報誌やホームページ、SNS（Facebook、Instagram）を活用して、行っております。 今後は、この他にLINEを活用した情報発信などを検討してまいりたいと考えております。 ご意見としていただきました部門別のメルマガを活用したバイトや物々交換等のマッチングにつきましては、現時点で検討しておりませんが、今後の参考にさせていただきます。</p>
2	<p>・就農者（新規・Iターン・Uターン）里親制度の実施 現状ある農地の活用、高齢化や後継者不足による荒廃地を食い止めるべく農業に興味がある方を受け入れ、1～2年間現従事者のもとで研修を行い、その後独立する際の初期投資への補助など。（弘前市や長野県で実施事例あり）</p> <p>※今年も豪雪となりハウスまたはりんご園では雪下ろしなどの対策を講じる必要がある。高齢化が進む農家は被害を受けると精神的に離農を検討してしまう傾向がある。最低限農道に歩いて行ける程度の除雪を定期的に行うことで、農家は園地に足を運び対策を講じることが出来る。現状高齢農家は身体的な面からも園地へ行けない。それらの対策も新規就農者に対するアピールとなる。</p>	<p>新規就農者には、新規就農者育成総合対策事業、りんご基幹青年養成事業、あおりりんご繋塾などで支援を行っており、里親制度を新設し、里親農家や、研修生の受け入れ、生活支援、初期投資に対する補助などを行う予算の確保は困難であるため、現時点で検討しておりませんが、今後の参考にさせていただきます。</p> <p>※毎年2月中旬ごろから畑等へ行く道路の除雪を行っております。行止りの雪盛の解消も3月中旬に行っていますが、除雪機の入れない道路の除雪は行っていないのが現状であり、毎年行っている除雪を継続する事が最善と考えています。</p>
3	<p>・役場周辺で飲食業区画を開設（例：田舎の飲食街） 村民が開店する際は初期投資へ3割補助、村外の方が開店する際は1割補助、移住して開店する際は3割補助など。村内農家からの食材の仕入れによる農家収入アップや村名物メニュー新設の可能性がある。それに伴い現状ある憩の家（温泉施設）のリフォームで観光関係の関連産業の構築。村への経済効果及び移住者を呼び込む可能性がある。</p>	<p>村内での新規開店に対する支援や、地場産品の活用による経済循環の創出、さらには温泉施設「老人憩の家」のリフォームを核とした観光産業の振興など、非常に多角的な視点からの貴重なご意見として承りました。</p> <p>現在、村では「田舎館村移住支援事業」など、既存の支援制度の運用に注力しております。そのため、ご提案いただいた施策につきましては現時点では検討しておりませんが、村の財政状況や既存事業との整合性を踏まえつつ、中長期的な村の活性化に向けた一つの方向性として、今後の参考にさせていただきます。</p>
4	<p>・子育て世代及び高齢者への手当拡充 人口増加または維持するために、一番金銭的に厳しい世代（子育て）と村人口の中でも大きい割合を示す高齢化への手当の拡充。また、新規参入世帯へのおもてなし手当。これらの手当等の他に本村は他市町村への交通便利性は優れていることのアピールなどをして、新規参入移住者の獲得をする。</p>	<p>手当の拡充について、子育て世帯へ村独自事業として出産祝金がありますが、各種無償化事業も含め今後検討してまいりたいと考えております。</p> <p>高齢者世帯へのおもてなし手当等は現時点で検討しておりませんが、今後の参考にさせていただきます。</p> <p>新規参入世帯へのおもてなし手当についてですが、現在村独自の新規事業を検討しております。新規参入移住者の獲得については引き続き様々な事業を検討してまいりたいと考えております。</p>

番号	寄せられた意見	村の考え方
5	<p>・小・中学生のクラブ活動への補助</p> <p>現在、国の方針で学校による部活動からクラブ化が進められている。それに伴い、学校教諭ではない指導者が必要となる。その指導者の仕事上の都合によって練習時間が変則的となっている。その際、送迎が厳しいため活動をさせてあげられないという家庭が増えている。送迎についての課題を解消しなければ、貴重な村民（子供たち）が村外のクラブチームへ流出している。そのまま村外へ移住して中学校生徒数すら減少してしまう可能性も考えられる。学校内でのクラブ活動一時待機ルームの開設またはシルバー人材や定年退職世代、何らかの理由で会社勤めが難しい方など運転手としての活用ともなる。</p>	<p>村においても一部の部活動がクラブ化しておりますが、送迎がクラブ化の課題であることは認識しております。</p> <p>村としては、認定地域クラブの認定を行い、国の補助金を活用しながら、クラブの活動を支援していくことを検討しております。</p> <p>現時点では村における送迎の支援は検討されておりませんが、寄せられた意見を参考にしながら、今後の送迎における課題を検討していきたいと思っております。</p> <p>また、学校内でのクラブ活動までの一時待機ルームの開設などは考えておりませんが、今後の参考とさせていただきます。</p>
6	<p>・地域おこし協力隊の募集と活用</p> <p>田舎館村の魅力を発信し、まずは興味を引いて、人を呼び込む。ふるさと納税返礼品における農家とのマッチングや一人暮らし及び核家族世帯に寄り添い、万が一に備えた対応など、役割は多岐にわたる。</p>	<p>現在、地域おこし協力隊については、村としてのミッションが定まっておらず、募集していない状態となっております。いただいたご意見を踏まえ、今後様々なニーズを考慮したうえで募集及び活用したいと考えております。</p>